

# Topological Determinacy of Smooth Map-Germs

京大理 石川 剛郎 (Goo Ishikawa)

有限位相確定写像芽 (topologically finitely determined map-germs) は, 微分可能写像の特異点論において興味深い対象である. それらは十二分な genericity を持っていることがわかっていて [30, 34, 7]. また, それらは, (少なくともホロジカルには), 整った構造を備えていることもわかっていて [10, 11, 12, 4]. しかし, それらの特徴付けることは, 通常の determinacy や, また他のいろいろな同値関係に関する determinacy における場合のようにはスンナリと事が運ばない, ということもわかっていて (cf. [35]). したがって

“有限位相確定写像芽を特徴付けること”

が, 興味ある問題となる. 本稿は, この問題を扱っている.

主な結果は、有限位相確定性の十分条件を与える定理1、並びに、必要条件を与える定理2である。特にこれらの結果から、値域の次元が小さい場合に、有限位相確定性の必要十分条件を得る（定理3）。

## §0 Introduction.

$\mathcal{E}(n, p)$  で、smooth ( $= C^\infty$ ) map-germs  $:\mathbb{R}^n, 0 \rightarrow \mathbb{R}^p, 0$  の全体を表わす。  $\mathcal{E}_n$  を smooth function-germs  $:\mathbb{R}^n, 0 \rightarrow \mathbb{R}$  のなす  $\mathbb{R}$ -algebra とし、  $\mathcal{M}_n = \mathcal{E}(n, 1)$  とその極大 ideal とする。このとき、

$$\begin{array}{ccc} \mathcal{E}(n, p) & \xrightarrow{\pi^k} & \mathcal{E}(n, p) / \mathcal{M}_n^k \mathcal{E}(n, p) \cong J^k(n, p) \cong \mathbb{R}^{p \cdot ((n+k) - 1)} \\ \downarrow f & \longmapsto & \left( \frac{1}{\alpha!} \frac{\partial^{|\alpha|} f}{\partial x^\alpha}(0) \right)_{|\alpha| \leq k} \end{array}$$

とおく。さらに、  $\pi^{k, k'} : J^k(n, p) \rightarrow J^{k'}(n, p)$  ( $k \geq k'$ ) と自然な射影とし、それに関する射影極限  $J^\infty(n, p) = \varprojlim_k J^k(n, p)$  について、しぜんな写像

$$\begin{array}{ccc} \pi^\infty : \mathcal{E}(n, p) & \longrightarrow & J^\infty(n, p) \cong \mathbb{R}[[x_1, \dots, x_n]] \otimes_{\mathbb{R}} \mathbb{R}^p \\ \downarrow f & \longmapsto & \sum_{\alpha} \frac{1}{\alpha!} \frac{\partial^{|\alpha|} f}{\partial x^\alpha}(0) x^\alpha \end{array}$$

を考へる。そして、  $\pi^k(f) = j^k f(0)$  ( $f \in \mathcal{E}(n, p), k=1, 2, \dots, \infty$ ) と書く。写像の確定性は、  $f$  の構造とその jet  $j^k f(0)$  との関係を問う：

smooth map-germ  $f \in \mathcal{E}(n, p)$  について,

定義 1. (1)  $f$  が topologically  $r$ -determined ( $r=1, 2, \dots, \infty$ )

とは,  $j^r f'(0) = j^r f(0)$  なる任意の map-germ  $f' \in \mathcal{E}(n, p)$

が  $f$  と位相的左右同値, すなわち, homeomorphism-germs

$h: \mathbb{R}^n, 0 \ni$ ,  $k: \mathbb{R}^p, 0 \ni$  が存在して,

$$f' \circ h = k \circ f$$

なるときにいう.

(2)  $f$  が topologically finitely determined とは, 或る有限の  $r$  について, topologically  $r$ -determined のとき,

(3)  $f$  が topologically infinitely determined とは, topologically  $\infty$ -determined のときにいう.

Note 1. 上の概念と関連して, smoothly finitely determined, smoothly infinitely determined 等の大切な性質がある. 与えられた smooth map-germ  $\in \mathcal{E}(n, p)$  がこれらの性質を持つかどうかを判定することは a priori には困難な問題だが, 写像の特異点論 (の局所理論) の発展に伴い, 多くの解決を見ている.

一般に  $\mathcal{G} \subset \text{Diff}^k(\mathbb{R}^n \times \mathbb{R}^p, (0, 0)) = \{H: \mathbb{R}^n \times \mathbb{R}^p, (0, 0) \ni C^k\text{-diffeomorphisms}\}$  subgroup ( $k=0, 1, 2, \dots, \infty$ ) に対して,  $f, f' \in \mathcal{E}(n, p)$  が  $C^k$ - $\mathcal{G}$ 同値 とは,  $H \in \mathcal{G}$  が存

在して,

$$H(\text{graph } f') = \text{graph } f$$

のときに云い,  $f' \underset{C^k}{\sim} f$  と書く.

$f \in \mathcal{E}(n, p)$  について, 先と同様に,

(4)  $f$ :  $C^k$ - $r$ -determined relatively to  $\mathcal{F}$

$\stackrel{\text{dfn.}}{\Leftrightarrow}$  任意  $f' \in \mathcal{E}(n, p)$  with  $j^r f'(0) = j^r f(0)$  について,  
 $f' \underset{C^k}{\sim} f$ .

(5)  $f$ :  $C^k$ -finitely determined relatively to  $\mathcal{F}$

$\stackrel{\text{dfn.}}{\Leftrightarrow} C^k$ - $r$ -determined relatively to  $\mathcal{F}$  for some  $r < \infty$

(6)  $f$ :  $C^k$ -infinitely determined relatively to  $\mathcal{F}$

$\stackrel{\text{dfn.}}{\Leftrightarrow} C^k$ - $\infty$ -determined relatively to  $\mathcal{F}$

と定義する.

特に,  $\mathcal{F} = \mathcal{C}, K, R, \mathcal{L}$ , 及び  $\mathcal{A}$  (cf. [25])  
 の場合が重要である. ここで,  $\text{Diff}^k(\mathbb{R}^n \times \mathbb{R}^p, (0, 0)) \supset \mathcal{C}$   
 $= \{ H \mid H(x, y) = (x, h(x, y)), h(x, 0) \equiv 0 \}$ ,  
 $R = \text{Diff}^k(\mathbb{R}^n, 0)$ ,  $\mathcal{L} = \text{Diff}^k(\mathbb{R}^p, 0)$ ,  $K = R \cdot \mathcal{C}$  (semi direct  
 product),  $\mathcal{A} = R \times \mathcal{L}$  (direct product) と定義する. た  
 とえば,  $\mathcal{F} = \mathcal{A}$ ,  $k=0$  の場合, (4), (5), (6) がそれぞれ定義  
 の (1), (2), (3) に対応する.

(なお, 本稿では扱わないが, *determinacy* に関する  
 話は他にもいろいろある. 同値関係にしても, 上の5つ以外

の  $\mathcal{O}$  に対しても興味がある (e.g.  $G$ -determinacy, equivariant-determinacy). また, まったく別種の同値関係に関して調べることも有意義であろう. (ちなみに, 筆者は,  $\mathcal{A}$  同値と  $\mathcal{K}$  同値, または  $\mathcal{A}$  同値と  $\mathcal{L}$  同値との関連を調べている過程で, ある種の新しい概念 "sub  $\mathcal{C}^\infty$  ring sheaf" を得, その構造を調べた [16], (なお, [16] の内容の一部は publish される予定 [17]) ) 一方, parametrized germs や composed map-germs の determinacy を考えることは, とても興味深い問題であろう (cf. [19], [29]). さらに, 本講究にあるように, vector field-germs や, diffeomorphism-germs あるいは, differential form-germs, tensor field-germs に対しその determinacy を考察することは重要なことである.)

本題に戻ろう.

さて, (5), (6) の性質について, その特徴づけに関し, 知られているのは次のケースである (cf. C.T.C. Wall [35]).

( $\alpha$ ): (5),  $\mathcal{O} = \mathcal{C}, \mathcal{K}, \mathcal{R}, \mathcal{L}, \mathcal{A}$ ,  $k = \infty$ .

( $\beta$ ): (5) and (6),  $\mathcal{O} = \mathcal{C}, \mathcal{K}, \mathcal{R}, \mathcal{L}$ ,  $k < \infty$ .

( $\gamma$ ): (6),  $\mathcal{O} = \mathcal{A}$ ,  $k \geq p+1$ .

( $\delta$ ): (5) and (6),  $\mathcal{O} = \mathcal{A}$ ,  $p=1$ .

(cf. Table 1)

data. $\mathcal{G}$	$\mathcal{C}, \mathcal{K}, \mathcal{R}, \mathcal{L}$	$\mathcal{A}$
$C^\infty$	finite	$(\alpha)$
	infinite	
$\vdots$		$(\delta)$
$C^{p+1}$	finite	$(\beta)$
	infinite	
$\vdots$		$(\delta)$
$C^0$	finite	$(\delta)$
	infinite	

$p=1$       $p \geq 2$ .

(Table. 1)

たとえば,  $\mathcal{G} = \mathcal{A}$  のとき, 次のような結果がある.

定理 (Mather, Gaffney)  $f \in \mathcal{E}(n, p)$  について次は同値:

- (i)  $f$ :  $C^\infty$ -finitely determined,
- (ii)  $m_n^k \theta(f) \subseteq \tau f(\theta_n) + w f(\theta_p)$ ,

(ここで,  $\theta(f)$  は  $f$  の  $C^0$  変分金体のなす  $E_n$  加群, 右边は,  $\text{Diff}^n(\mathbb{R}^n, 0) \times \text{Diff}^n(\mathbb{R}^p, 0)$  からくる変分金体.)

さらに,  $f$  が analytic のときは, 次も同値:

(iii)  $f$  の複素化  $f_c: \mathbb{C}^n, 0 \rightarrow \mathbb{C}^p, 0$  が multi-stable off 0.

定理 (L.C. Wilson [37])  $f$  が analytic かつ  $\mathcal{K}$ -finite  
(=  $C^\infty$ -finitely determined relatively to  $\mathcal{K}$ ) のとき次は同値:

(i)  $f: C^\infty$ -infinitely determined.

(ii)  $m_n^\infty \theta(f) \subseteq tf(\theta_n) + wf(\theta_p)$ .

ここで,  $m_n^\infty = \bigcap_e m_n^{e+1}$  は  $E_n$  の  $\infty$ -flat elements 金体.

(iii)  $f$ : 条件 (e) をみたす (cf. p.13.).

(iv)  $f$ : 条件 (g) をみたす, すなわち,  $f$  は multi-stable off 0 (cf. p.13.).

定理 (Kuiper - Kuo - Bochnak - Łojasiewicz - Wilson)

$f$  が analytic,  $p=1$  のとき, 次は同値:

(i)  $f: C^k$  infinitely determined. ( $0 \leq k \leq \infty$ )

(ii)  $f$  の set-germ of critical points  $C(f) \subseteq \{0\}$ .

(iii)  $f: C^k$  finitely determined ( $0 \leq k < \infty$ )

(Note1 おわり)

さて, 理想としては, smooth map-germ  $f \in E(n, p)$   
が与えられたとき, それが topologically  $r$ -determined かどう  
か簡単に判定できる そういう判定法を見出だすのがも

53 人一番よいのだが、それは現在のところ ( $p=1$  の場合をのぞいて) あくまで理想である。

Note. 2 他の *determinacy* についても, *exact* な *determinacy* の *order*

$$\text{det. ord. } k, \mathcal{O}, f = \inf \{ r \in \mathbb{N} \cup \{\infty\} \mid f: C^k\text{-}r\text{-det. rel. } \mathcal{O} \}$$

を求めることには非常な困難が伴う。それは、いわゆる *jet* の *sufficiency* という大きな問題とかがわってくるわけだが、 $k=\infty$ ,  $\mathcal{O}=\mathcal{A}$  (cf. [du Plessis] [13]),  $k=\infty$ ,  $\mathcal{O}=\mathbb{R}$ ,  $p=1$  及び  $k<\infty$ ,  $\mathcal{O}=\mathbb{R}$  の場合が主に扱われている。

われわれは、ここでは、(2) 及び (3) の性質に注目し、それに対する、できるだけ良い十分条件とできるだけ良い必要条件を見出すこと、を試みる。

(2) の性質、すなわち *topological finite determinacy* は、いわゆる *jet* の *topological sufficiency* に関する Thom-Varčenko type theorem と密接に関係している。

du Plessis [7] は次の定理を示している。



定理 (du Plessis) 各自然数  $r$  に対して  $L^r(m) \times L^r(p)$ -invariant semi-algebraic subset  $\Sigma^r \subset J^r(m, p)$  が存在して,

$$(1) \text{codim } \Sigma^r \rightarrow \infty \text{ as } r \rightarrow \infty$$

$$(2) f \in \mathcal{E}(n, p), j^r f(0) \in J^r(m, p) \setminus \Sigma^r \Rightarrow$$

(a)  $f$  は topologically  $r$ -determined

(b)  $\bar{f}: U \rightarrow V$ , representative of  $f$  が存在して,

$j^r \bar{f}: U \rightarrow J^r(U, V)$  を考えると、 $j^r \bar{f}|_{U \setminus \{0\}}$  は, canonical stratification  $\mathcal{S}^{(k)}$  of  $J^r(U, V) \setminus \Sigma_r(U, V)$  に multi-transverse であり,  $\mathcal{A}_1 = \bar{f}^* \bar{f}_* [(j^r \bar{f}|_{U \setminus \{0\}})^* \mathcal{S}^{(k)}(U, V) \cup \{0\}]$ ,  $\mathcal{A}_2 = \bar{f}_* \mathcal{A}_1$  とおくと、 $(\mathcal{A}_1, \mathcal{A}_2)$  は  $\bar{f}$  の Thom stratification となる。—

(ここで、用語は du Plessis のものと若干異なる。また後の説明を参照のこと。)

さて、この定理を鑑賞しよう。まず、当然のことながら  $(\pi^r)^{-1}(\Sigma^r) \supset \Sigma^s$  ( $s \geq r$ ) が成り立つことがその構成からわかる。さらに

$$\Sigma^\infty = \bigcap_r (\pi^r)^{-1}(\Sigma^r) \subset \mathcal{E}(n, p)$$

とおくと、これは infinite codimension を持ち、 $\mathcal{E}(n, p) \setminus \Sigma^\infty$  の元は良い性質をもつ、特に topologically finitely determined であるということが定理から従う。しかし  $\Sigma^\infty \supset \Sigma_\infty = \{ \text{non } \kappa\text{-finite} \}$  ( $\kappa\text{-finite} = C^\infty \text{ finitely det. rel. } \kappa$ ) であり、 $\Sigma^\infty$  は或る意味で infinite dimension を持ち、その中には良い

性質をもつ map-germ がごろごろしている。というわけで、topological finite determinacy の十分条件を得ようという場合には（とりわけ必要十分条件を得る目的においては） $\Sigma^\infty$  あるいは  $\Sigma_\infty$  の元も扱うことを心がけたい。

さて、そこで次の条件を考えよう。

定義 2.  $f \in \mathcal{E}(n, p)$  が, excellent off 0 とは,  $0 \in \mathbb{R}^n$  以外で, その representative が Mather の canonical stratification ([27], [28], [15]) に multi-transverse であり, さらに, 次の Łojasiewicz 型不等式を満たすときにいう。

$$(E) \quad \exists k \in \mathbb{N}, \exists a, \alpha > 0$$

$$\text{dist}((j^{k+1}f)^{p+1}(x), NT^{(k, p+1)}) \geq a \cdot \text{dist}(x, D_f^{(p+1)})^\alpha$$

for all  $x$  in a neighborhood of  $0$  in  $(\mathbb{R}^n)^{p+1}$ .

ここで,  $(j^{k+1}f)^{p+1} : (\mathbb{R}^n)^{p+1}, 0 \rightarrow [J^{k+1}(\mathbb{R}^n, \mathbb{R}^p)]^{p+1}$  は  $f$  の  $p+1$ -jet extension の  $p+1$ -tuple,  $\text{dist}$  は  $[J^{k+1}(\mathbb{R}^n, \mathbb{R}^p)]^{p+1}$  及び  $(\mathbb{R}^n)^{p+1}$  を標準的に Euclidean space と思ったときの距離であって,

$NT^{(k,l)} = \{z \in [J^{k+1}(\mathbb{R}^n, \mathbb{R}^p)]^l \mid z = (j^{k+1}g)^l(x),$   
 $x \in (\mathbb{R}^n)^l$  としたとき,  $\exists i, j^k g(x_i) \in \Sigma_k(\mathbb{R}^n, \mathbb{R}^p)$  or  
 $\forall i, j^k g(x_i) \notin \Sigma_k(\mathbb{R}^n, \mathbb{R}^p)$  であり  $j^k g$  is not multi-  
 transverse to the canonical stratification  $J^k(\mathbb{R}^n, \mathbb{R}^p)$  of  
 $J^k(\mathbb{R}^n, \mathbb{R}^p) \setminus \Sigma_k(\mathbb{R}^n, \mathbb{R}^p)$  at  $(x_1, x_2, \dots, x_l)$  } すなわ  
 ち, 避けるべき multi-jets 全体, さらに

$D_f^{(l)} = \{x \in (\mathbb{R}^n)^l \mid \exists x_i = 0 \text{ or } \exists i \neq j, x_i = x_j, C(f) \ni x_i\}$   
 とおいた. (cf. [37]) なお,

$$\Sigma_k = \{z \in J^k(x, p) \mid z = j^k g(0),$$

$$\dim_{\mathbb{R}} \theta(g)_0 / [\theta(g)(\theta_n) + (g^* m_p + m_n^k) \theta(g)_0] \geq k\}$$

である. ([28], [15] を参照のこと)

Remark 1.  $\Sigma_k$  は algebraic subset,  $D_f^{(l)}$  は closed,  
 $NT^{(k,l)}$  は closed semi-algebraic であり,  $f$  が analytic なら,  
 $D_f^{(l)}$  は analytic subset となる. また,  $k$ -jet section の 或る点  
 における tangent map は, その点における  $k+1$ -jet で決まる  
 から  $NT^{(k,l)}$  は well-defined である.  $NT^{(k,l)}$  の定義から  
 明らかのように,  $f$  が条件 (E) を満たすならば,  $0 \in \mathbb{R}^n$  以外  
 で canonical stratification に multi-transverse になる.

Note 3. "excellent" という言葉は, もともと H. Whitney  
 や R. Thom により別の意味で使われている ([43], [42]). そ

れと、もちろん無関係ではないが、ここでは、誤解は生じないと思うし、他に適当な言葉使いが見当らなかつたので、あえて excellent off 0 という名前をつけた。余談になるが、Mather の nice range について、Mather [27] は "..... we call (for lack of a better name) the "nice range of dimensions" と書いている。また Fukuda [13] には、結構次元と訳されている。用語の問題も結構むずかしい.....

さて、われわれの十分条件は次のものである：

定理 1.  $f: \mathbb{R}^n, 0 \rightarrow \mathbb{R}^p, 0$  を  $C^\infty$  map-germ とする。  $f$  が excellent off 0 ならば、  $f$  は topologically finitely determined である。

例 1.  $f \in \mathcal{E}(2, 2)$ ,  $f(x, y) = (x^2 + y^2, (x^2 + y^2)y)$  とする。  $f$  は excellent off 0. したがって、 topologically finitely determined となる。  $f$  は non  $K$ -finite であることに注目したい。

Remark. 2.  $f \in \mathcal{E}(n, p)$  について定義 2 と密接に関連する概念がある。

$f : \underline{\text{MT-stable off } 0} \stackrel{\text{dfn}}{\iff} 0 \in \mathbb{R}^n \text{ 以外で "canonical stratification に multi-transverse. } \stackrel{\text{i.e.}}{\iff} \text{ 次の条件 (G) をみたす}$

$$(G) \quad [(j^{k+1}f)^{p+1}]^{-1}(NT^{(k,p+1)}) \subseteq D_f^{(p+1)} \text{ for some } k.$$

$f : \underline{\text{Wilsonian germ}} \stackrel{\text{dfn}}{\iff} \text{ 次の条件 (e) をみたす ([37])}$

$$\exists a, \alpha > 0$$

$$(e) \quad \text{dist}((j^{p+1}f)^{p+1}(x), U_{ns}) \geq a \cdot \text{dist}(x, D_f^{(p+1)})^\alpha$$

for all  $x$  in a neighborhood of  $0$  in  $(\mathbb{R}^n)^{p+1}$ .

$f : \underline{\text{multi-stable off } 0} \stackrel{\text{dfn}}{\iff} 0 \in \mathbb{R}^n \text{ 以外で "multi-stable}$   
 $\stackrel{\text{i.e.}}{\iff} \exists \text{ repre. of } f, \bar{F}: U \rightarrow V, \forall y \in V, \bar{F}^{-1}(y) \cap C(\bar{F}) \setminus 0 \geq^V S$   
 finite に対し,  $\bar{F}_S: U, S \rightarrow V, y$  が infinitesimally stable.  $\stackrel{\text{i.e.}}{\iff}$   
 次の条件 (g) をみたす.

$$(g) \quad [(j^{p+1}f)^{p+1}]^{-1}(U_{ns}) \subseteq D_f^{(p+1)}$$

(ここで,  $U_{ns}$  は, unstable  $p+1$ -multi  $p+1$ -jets 全体.)

このとき,

$$\begin{array}{ccc} (e) & \iff & (E) \\ \Downarrow & & \Downarrow \\ (g) & \iff & (G) \end{array}$$

が成り立つ.

$f$  が analytic のとき, Remark 1. と Łojasiewicz 不等式より,

$$(e) \iff (E), \quad (g) \iff (G).$$

$(n, p)$  が Mather の nice range に属するとき,

(e)  $\iff$  (g), (E)  $\iff$  (G),  
 が成り立つ. (cf. [40]).

系 1.  $f: \mathbb{R}^n, 0 \rightarrow \mathbb{R}^p, 0$  analytic に対して,  
 $f: \text{MT-stable off } 0 \implies f: \text{topologically finitely determined.}$

Remark 3 定理 1, 及び 系 1 の逆は成立しない. ([24], [5])

Remark 4 系 1 で, analytic という仮定は必要である.  
 実際  $\infty$ -flat (したがって top. infinitely det. でない) smooth  
 map-germ で MT stable off 0 なものが存在する.

さて, 次にわれわれの必要条件を述べよう. そのために,  
 次の概念を導入する必要がある.

定義 3.  $S$  を  $\mathbb{R}^n$  の有限集合とし,  $f: \mathbb{R}^n, S \rightarrow \mathbb{R}^p, \gamma$   
 $f(S) = \gamma$  を smooth map-germ とする.

$f$  が topologically weakly stable とは,  $f$  の或る  
 representative  $\bar{F}: U \rightarrow V$  があって,  $\gamma$  かつ  $S$  の開近傍  $W_1$ ,  
 $W_2$ ,  $U \supset W_1 \supset W_2$ ,  $W_1 \cap W_2 = \emptyset$ , および任意  $\varepsilon > 0$  に対して,  
 $C^\infty(U, V)$  における  $\bar{F}$  の近傍  $N$  が存在して, どんな  $f' \in N$  と  
 有限集合  $T \subset W_2$  に対しても,  $W_1$  の或る有限集合  $T'$  で,

$$d(T, T') (= \sup_{x \in T} d(x, T') + \sup_{x' \in T'} d(T, x')) < \varepsilon \quad \text{かつ}$$

$$f'_{T'} \sim_{C^0} f_T$$

なるものが取れるときにいう、すなわち、 $f$ のわずかな擾動によつては、周辺の topological types が増加しない、ときいう。

定義4.  $f \in \mathcal{E}(n, p)$  が topologically weakly stable off 0 とは、その或る representative  $\bar{F}: U \rightarrow V$  があつて、 $\forall \varepsilon \forall \delta, \bar{F}^{-1}(\delta) \setminus 0 \supseteq \bigcup S$  finite に対して、 $\bar{F}_S: U, S \rightarrow V, \delta$  が定義3の意味で topologically weakly stable のときにいう。

Remark 5.  $f: \text{topologically stable off 0} \Rightarrow \text{topologically weakly stable off 0.}$  が成り立つ。

定義5.  $f \in \mathcal{E}(n, p)$  の topological regular stratification  $(\mathcal{S}_1, \mathcal{S}_2) \stackrel{\text{dfn}}{\iff}$   $f$  の或る representative  $\bar{F}: U \rightarrow V$  について  $\mathcal{S}_1$  は  $U$  の (locally flat) topological submanifolds からなる (locally finite) locally topologically trivial stratification,  $\mathcal{S}_2$  も  $V$  に対して同様のものであつて、 $\bar{F}$  は  $(\mathcal{S}_1, \mathcal{S}_2)$  に関して topological stratified map (i.e.  $\mathcal{S}_1 \ni \forall X, \exists Y \in \mathcal{S}_2, \bar{F}(X) \subseteq Y, \bar{F}|_X: X \rightarrow Y$  は topological submersion) となり、さらに次の意味の topological triviality を有す:  $\mathcal{S}_2 \ni \forall Y \ni \forall \delta, \bar{F}^{-1}(\delta) \cap \bigcup S$  finite,  $\exists W: W \cap \bar{F}^{-1}(\delta) \cap \bigcup S$  finite,  $\bar{F}|_W: W \rightarrow Y$  は topological submersion) となる。

$\mathcal{Y}$  の近傍,  $F(Y \cap W) \supseteq \bar{S}$ ,  $\bar{S} \cap F^{-1}(\mathcal{Y}) = S$ ,  $F|_S: U, \bar{S} \rightarrow V, Y \cap W$  は topologically trivial along  $Y \cap W$ .

さて, われわれの必要条件は次のものである.

定理 2.  $f: \mathbb{R}^n, 0 \rightarrow \mathbb{R}^p, 0$  を  $C^\infty$ -map-germ とす

る.  $f$  が topologically infinitely determined ならば,

(i)  $f$  は MT-stable off 0 な germ と位相同値.

(ii)  $f^{-1}(0) \cap C_{\text{top}}(f) \subseteq \{0\}$ ,  $f|_{C_{\text{top}}(f)}$  は uniformly finite to one.

(iii)  $f$  は topological regular stratification  $(\mathcal{S}_1, \mathcal{S}_2)$

で, 次をみたすものを持つ:

(a)  $\mathcal{S}_1 \ni \{0\}$ ,  $\mathcal{S}_2 \ni \{0\}$ .

(b)  $\mathcal{S}_2 \setminus \{0\}$  の各 stratum の各 connected component は 0 を closure に含む.

(iv)  $f$  は topologically weakly stable off 0.

とくに,  $C_{\text{top}}(f) \setminus 0 = C(f) \setminus 0$

ここで,

$C(f) = \{x \in \mathbb{R}^n \mid f_x \text{ は submersion と } C^\infty\text{-}\mathcal{A} \text{ 同値でない}\}$

$C_{\text{top}}(f) = \{x \in \mathbb{R}^n \mid f_x \text{ は submersion と } C^0\text{-}\mathcal{A} \text{ 同値でない}\}.$



とおいている。

定理1と定理2から、いろいろの結果が従う。たとえば、

定理3.  $f: \mathbb{R}^n, 0 \rightarrow \mathbb{R}^p, 0$   $C^\infty$ -map-germ ( $p \leq 3$ )

について、次は互いに同値となる。

- (i)  $f$  は topologically finitely determined.
- (ii)  $f$  は topologically infinitely determined.
- (iii)  $f$  は 条件(e) をみたす (Wilsonian).
- (iv)  $f$  は excellent off 0.

また、 $f$  が analytic のときは、さらに次も同値:

- (v)  $f$  は multi-stable off 0.

が示される。定理3の結果の一部は、[18]及び本講演でのべた。この結果から、定理1の十分条件が、かなり良いものである、と結論付けることも、あるいは可能であるかもしれない。ともかく、 $p$  が十分小の場合は、excellent off 0 という条件は位相的有限確定性の完全な特徴付けを与えている。

$f$  が analytic のとき

Remark 6. 定理3の条件(v)は、 $p \leq 3$  の場合、具体

的に次のことと同値になる:  $p=1, 2, 3$  に従って, それぞれ,

$$(*) : C(f) \subseteq \{0\}.$$

(\*\*):  $f$  の representative  $\bar{F}: U \rightarrow V$  があって,  
 $C(\bar{F}) \setminus \{0\} \ni \forall x, \bar{F}x$  は fold type, i.e.

$$\bar{F}x \overset{\text{co-}\mathcal{A}}{\sim} (\chi_1, \pm\chi_2^2 \pm \chi_3^2 \pm \dots \pm \chi_n^2),$$

さらに,  $\bar{F}|_{C(\bar{F})}$  が injective.

(\*\*\*):  $f$  の representative  $\bar{F}: U \rightarrow V$  があって,  
 $C(\bar{F}) \setminus \{0\} \ni \forall x, \bar{F}x$  は fold type i.e.

$$\bar{F}x \overset{\text{co-}\mathcal{A}}{\sim} (\chi_1, \chi_2, \pm\chi_3^2 \pm \dots \pm \chi_n^2)$$

または cusp type, i.e.

$$\bar{F}x \overset{\text{co-}\mathcal{A}}{\sim} (\chi_1, \chi_2, \chi_3^3 + \chi_1\chi_3 \pm \chi_4^2 \pm \dots \pm \chi_n^2)$$

(ただし,  $n < 3$  のときは,  $\bar{F}x$  は immersion に限る. これを fold type と見做す.) である, すなわち,

$$C(\bar{F}) \setminus \{0\} \subseteq \text{Fold}(\bar{F}) \cup \text{Cusp}(\bar{F})$$

であり,  $\bar{F}|_{\text{Cusp}(\bar{F})}$  は injective,  $\text{Fold}(\bar{F}) \cap \bar{F}^{-1}(\bar{F}(\text{Cusp}(\bar{F}))) \subseteq \{0\}$ ,  $\bar{F}|_{\text{Fold}(\bar{F})}$  は 0 以外で transverse な self-intersection をもつ. ———

定理3の応用は多いように思われる. ここでは, ちょっと毛色の違ったものを挙げよう.

系2.  $f, g : \mathbb{R}^2, 0 \rightarrow \mathbb{R}^2, 0$  を analytic map-germs とする. 合成  $g \circ f : \mathbb{R}^2, 0 \rightarrow \mathbb{R}^2, 0$  が topologically finitely determined であるための必要十分条件は,  $f$  と  $g$  が topologically finitely determined,  $C(g) \cap \overline{\{y \in \mathbb{R}^2 \mid \#f^{-1}(y) \geq 2\}} \subseteq \{0\}$ , かつ  $g|_{C(fcc)}$  が injective なことである.

なお, du Plessis - Brodersen は本稿の内容と密接に関連する結果を得ていると聞く ([35], [8]).

謝辞 常にあたたかい励しと, 貴重な助言をくださった諸先生, 諸先輩に感謝します. 特に, 中居功氏と福田拓生先生には, 多くのアイデアを示唆していただきました. また, 本稿は, 小池敏司氏に, jet の sufficiency に関することをいろいろ教えていただいた賜だと思っています. そして——私のどう見ても稚拙な数学のやり方を辛抱強く見守ってくださる, 足立正久先生, 戸田宏先生に深く感謝する次第です.

以下, §1, §2, §3 で, 定理1, 定理2, 定理3 の証明の概略を述べる. 詳しくは, [38] に書く予定である.

## §1. 定理1の証明

$f \in \mathcal{E}(n, p)$ ,  $J$  を base point  $*$  を持った  $C^\infty$  manifold としたとき,  $F: \mathbb{R}^n \times J, \mathcal{O} \times J \rightarrow \mathbb{R}^p \times J, \mathcal{O} \times J$  が  $f$  の  $r$ -flat unfolding とは,  $F$  が  $C^\infty$  な  $f$  の unfolding;  $F(x, t) = (f_t(x), t)$  ( $x \in \mathbb{R}^n, t \in J$ ),  $f_* = f$ , であり,  $f_t - f$  が各  $t$  について,  $r$ -flat at  $0 \in \mathbb{R}^n$  のときにいう. また  $F$  が locally  $C^0$ -trivial preserving 0 とは, 任意  $t_0 \in J$  に対してその  $J$  における近傍  $W$  と, homeomorphism-germs  $H: \mathbb{R}^n \times W, \mathcal{O} \times W \rightarrow \mathbb{R}^n \times W, \mathcal{O} \times W$  が存在して, 図式

$$\begin{array}{ccccc}
 & \mathbb{R}^n \times W, \mathcal{O} \times W & \xrightarrow{F} & \mathbb{R}^p \times W, \mathcal{O} \times W & \\
 & \uparrow i & & & \downarrow i \\
 \mathcal{O} \times W & & & & \mathcal{O} \times W \\
 & \downarrow H & \begin{array}{c} \xrightarrow{\pi_W} \\ \xrightarrow{\pi_W} \end{array} & W & \begin{array}{c} \xleftarrow{\pi_W} \\ \xleftarrow{\pi_W} \end{array} & \\
 & \downarrow i & & & \downarrow i \\
 \mathbb{R}^n \times W, \mathcal{O} \times W & \xrightarrow{f_{t_0} \times I_W} & & \mathbb{R}^p \times W, \mathcal{O} \times W & \\
 & & & \downarrow K & \\
 & & & W & 
 \end{array}$$

が可換になるときをいう.

定理1は, 次のより強い形で証明される:

命題1.  $f \in \mathcal{E}(n, p)$  が excellent off 0 ならば, 或る自然数  $r$  が存在して,  $f$  の任意の  $r$ -flat unfolding は locally  $C^0$ -trivial preserving 0 である.

定理1の証明:  $f \in \mathcal{E}(n, p)$  を excellent off 0 とし, 命題1に保証された  $r \in \mathbb{N}$  をとる. いま任意  $f' \in \mathcal{E}(n, p)$ ,  $j^r f'(0) = j^r f(0)$  について,  $f$  の  $r$ -flat unfolding  $F: \mathbb{R}^n \times \mathbb{R}, 0 \times \mathbb{R} \rightarrow \mathbb{R}^p \times \mathbb{R}, 0 \times \mathbb{R}$  を,  $F(x, t) = ((1-t)f(x) + tf'(x), t)$  で定義する.  $F$  は locally  $C^0$  trivial preserving 0 だから,  $f_t = (1-t)f + tf'$  の  $C^0$ - $\mathcal{A}$  type は  $\mathbb{R}$  の open subsets による分割を与える.  $\mathbb{R}$  は連結ゆえ,  $f_t$  たちはすべて  $C^0$ - $\mathcal{A}$  同値. とくに,  $f = f_0 \overset{C^0\text{-}\mathcal{A}}{\sim} f_1 = f'$ .

命題1の証明の概略: Step. 1.  $J^k(n, p) \setminus \Sigma_k$  の canonical stratification を  $\mathcal{S}^{(k)}$  と書く. これより,  $J^k(\mathbb{R}^n, \mathbb{R}^p) \setminus \Sigma_k(\mathbb{R}^n, \mathbb{R}^p)$  の stratification  $\mathcal{S}^{(k)}(\mathbb{R}^n, \mathbb{R}^p)$  が induce される. いま,  $f$  が excellent off 0 であるから, 或る  $k$  に対し,  $j^k f|_{\mathbb{R}^n \setminus 0}$  は  $\mathcal{S}^{(k)}(\mathbb{R}^n, \mathbb{R}^p)$  に transverse であり,  $\mathcal{S}_1 = f^* f_* [(j^k f|_{\mathbb{R}^n \setminus 0})^* \mathcal{S}^{(k)}(\mathbb{R}^n, \mathbb{R}^p) \cup \{0\}]$ ,  $\mathcal{S}_2 = f_* \mathcal{S}_1$  は well-defined で,  $(\mathcal{S}_1, \mathcal{S}_2)$  は,  $f$  の stratification を与える.  $\mathcal{S}_1 \ni f^{-1}(0) \setminus 0, \{0\}$ ,  $\mathcal{S}_2 \ni \{0\}$  に注意する. このとき, ①:  $(\mathcal{S}_1 \setminus \{f^{-1}(0) \setminus 0, \{0\}\}, \mathcal{S}_2 \setminus \{0\})$  は,  $f|_{\mathbb{R}^n \setminus f^{-1}(0)}: \mathbb{R}^n \setminus f^{-1}(0) \rightarrow \mathbb{R}^p \setminus 0$  の Thom stratification を与える. ②:  $\mathcal{S}_1|_{\mathbb{R}^n \setminus f^{-1}(0)} \ni^{\forall} X$  について,  $X$  は Whitney regular over  $\{0\}$ . ③  $\mathcal{S}_2 \ni^{\forall} Y$  について,  $Y$  は Whitney regular over  $\{0\}$ . ④  $\mathcal{S}_1|_{\mathbb{R}^n \setminus 0} \ni^{\forall} X$  について,  $X$  は Whitney regular over  $f^{-1}(0) \setminus 0$ .

⑤  $f^{-1}(0) \setminus \{0\}$  は Whitney regular over  $\{0\}$ . ⑥  $(\mathcal{S}_1, \mathcal{S}_2)$  は,  $f$  の Thom stratification を与える. ことが証明できる. Step. 2.  $f$  が excellent off 0 のとき,  $f_t - f$  が  $r$ -flat at 0 ( $r: +$  十分大) なる  $f_t$  に対して,  $f_t$  も excellent off 0 となる. Step. 3.  $F$  を  $f$  の  $r$ -flat unfolding とする.  $j_1^* F: \mathbb{R}^n \times J \rightarrow J^*(\mathbb{R}^n, \mathbb{R}^p) \times J$  を  $j_1^* F(x, t) = (j_1^* f_t(x), t)$  で定義したとき,  $\bar{\mathcal{S}}_1 = F^* F_* [ (j_1^* F |_{\mathbb{R}^n \times J \setminus 0 \times J})^* \mathcal{S}^{(k)}(\mathbb{R}^n, \mathbb{R}^p) \cup 0 \times J ]$ ,  $\bar{\mathcal{S}}_2 = F_* \bar{\mathcal{S}}_1$  とおけば  $(\bar{\mathcal{S}}_1, \bar{\mathcal{S}}_2)$  は  $F$  の Thom stratification を与える. これは,  $(\mathcal{S}_1, \mathcal{S}_2)$  と,  $(\mathcal{S}_1 \times J, \mathcal{S}_2 \times J)$  とを比較することにより得られる. Step. 4 Thom's 2nd isotopy lemma (cf. [9], [15], [26]) と,  $\bar{\mathcal{S}}_1 \ni 0 \times J$ ,  $\bar{\mathcal{S}}_2 \ni 0 \times J$  より,  $F$  は locally  $C^0$  trivial preserving 0 となる.

## § 2 定理 2 の証明

$f \in \mathcal{E}(n, p)$  を topologically infinitely determined とする. このとき,  $f$  は次の性質をもつ  $f' \in \mathcal{E}(n, p)$  と位相同値:  $f'$  は MT-stable off 0,  $f'^{-1}(0) \cap C(f') \subseteq \{0\}$ ,  $f' |_{C(f')}$  uniformly finite to one, とくに,  $C(f') \setminus 0 = C_{\text{top}}(f') \setminus 0$ . さらに  $\mathcal{S}: \mathbb{R}^n \setminus f'^{-1}(0)$  の Whitney stratification (の 0 での germ),  $\mathcal{S}': \mathbb{R}^p \setminus 0$  の Whitney stratification が存在して,  $(\mathcal{S}, \mathcal{S}')$  は  $f' |_{\mathbb{R}^n \setminus f'^{-1}(0)}: \mathbb{R}^n \setminus f'^{-1}(0) \rightarrow \mathbb{R}^p \setminus 0$  の Thom stratification,  $\mathcal{S}, \mathcal{S}'$  は finite

strata をもち、 $\bar{X}$  の各 stratum の各 connected component は  $0$  を closure に含む。

このことは、 $f$  が topologically finitely determined であれば、Fukuda's Transversality Theorem [11] から明らかである。一般に  $f$  が topologically infinitely determined のときは、Multijet Transversal Extension Theorem [36] を改良する必要がある。

さて、したがって  $f$  が、(i)(ii)及び(iii) を満たすことが従う。いま、 $f$  が topologically weakly stable off  $0$  でないと仮定する。すると、 $\exists \gamma_i \in \mathbb{R}^p$  点列、 $\gamma_i \rightarrow 0$  (as  $i \rightarrow \infty$ )、 $\gamma_i$  は  $X_2$  の一つの stratum に属し、 $f^{-1}(\gamma_i) \cap S_i$  finite,  $f_{S_i}: \mathbb{R}^n, S_i \rightarrow \mathbb{R}^p, \gamma_i$ : not top. w. stable. いま  $f_{S_i}$  を、 $S_i$  を含む十分小さな support を持つ perturbation で新しい top. type  $f''_{T_i}$  をつくる。  $T_i = \cup_j T_{ij}$   $f''(T_{ij})$ : 1-pt と disj. に分けると、 $\exists j, T_{ij} \subset S''_i$  finite,  $f''(S''_i)$ : 1-pt,  $f''_{S''_i}$  は、 $\gamma_i$  の近くの  $\gamma''_i$ ,  $S \subset f^{-1}(\gamma''_i)$  について  $f_S$  と top. inequiv. このような perturbation は  $\infty$ -flat perturbation  $f'' \in \mathcal{E}(n, p)$ ,  $j^{\infty} f'' = j^{\infty} f$  で実現される。いま、top. types に属する  $\mathbb{R}^p \setminus 0$  の分割を考えると、その分割成分のあるものは、 $0$  を closure にもたない (それは  $\gamma''_i$  を含む十分小さな ball に含まれる) これは、 $f'' \xrightarrow{\text{ca}} f$  に及ぶ。したがって、 $f$  は topologically weakly stable off  $0$  となる。さらに、

補題1.  $f \in \mathcal{E}(n, p)$ , topologically submersion,  
topologically weakly stable off 0  $\Rightarrow f$ : submersion.  
より定理2の証明が完了する.

補題1の証明: fold をつくる.

### §3 定理3の証明

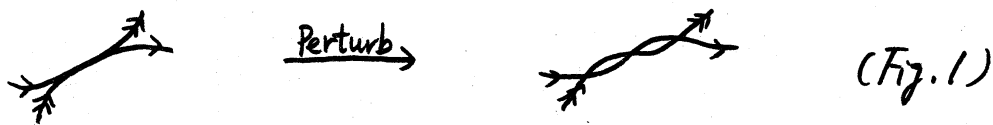
(iii)  $\Leftrightarrow$  (iv)  $\Rightarrow$  (i)  $\Rightarrow$  (ii) が定理1等からわかる.

そこで (ii)  $\Rightarrow$  (iii) を示そう.  $p=1$  のときはよく知られている.  $p=2$  のとき, (iii) を否定すると,  $j^\infty f'(0) = j^\infty f(0)$  なる  $f'$  で次の性質をもつものが存在する:  $\mathbb{R}^2 \ni \exists \gamma_i$  点列,  $f'(\gamma_i) \setminus 0 \ni \exists S_i$  finite,  $f'|_{S_i}$ : not stable. まず補題1より  $\gamma_i \neq 0$  としてよい.

補題2.  $g: \mathbb{R}^n, x \rightarrow \mathbb{R}^2, y$  が not submersion nor fold  $\Rightarrow g$  は topologically isolated or not topologically weakly stable.

したがって, 定理2より,  $C(f') \setminus 0 \subset \text{Fold}(f')$  としてよい. いま  $\text{Fold}(f')$  は 0 以外で non-transverse to self-intersection をもつわけであるが, これは,  $\infty$ -flat perturbation により, topologically isolated にできる. (Fig. 1)





これは再び定理2に及する。したがって, (iii) が成立する。  
 $P=3$  のときも同様にする:

補題3.  $g: \mathbb{R}^n, x \rightarrow \mathbb{R}^3, y$

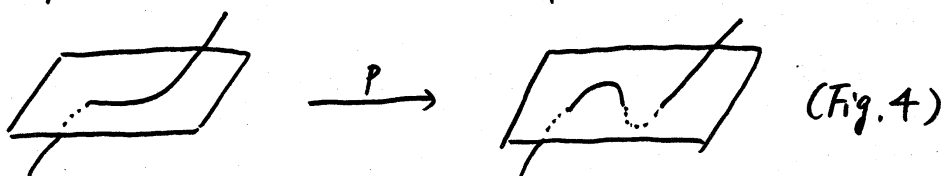
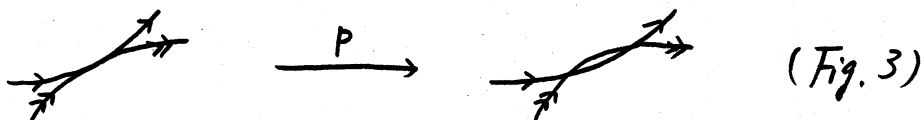
(i)  $n \geq 3$ ,  $g$ : not submersion nor fold nor cusp  
 $\Rightarrow g$ : topologically isolated or not topologically weakly stable.

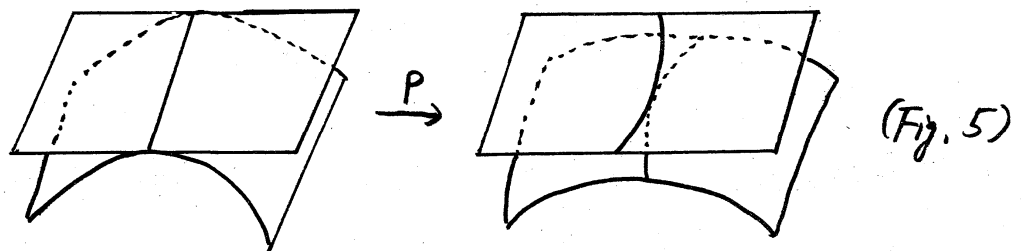
(ii)  $n=2$ ,  $g$ : not immersion  $\Rightarrow g$  は Whitney umbrella (top. isol.) で近似可能

(iii)  $n=1$   $g$ : not immersion  $\Rightarrow g$ : not topologically weakly stable (Fig. 2)

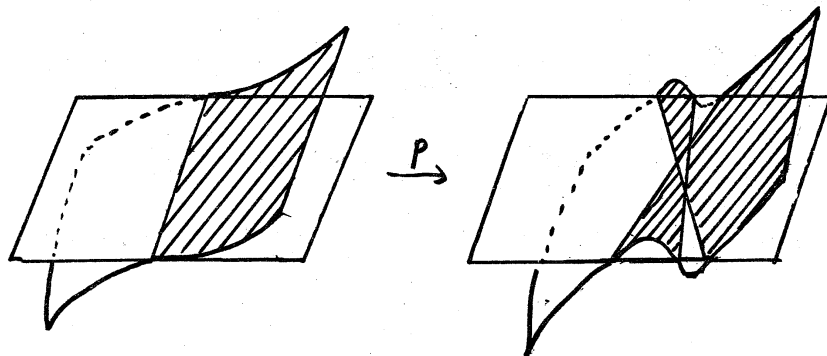


さらに, Fold locus 及び Cusp locus が non general position に交われれば, top. isol. なもので近似できることを使う (Fig. 3, 4, 5, 6)





(Fig. 5)



(Fig. 6)

( $\mathbb{R}^2 \rightarrow \mathbb{R}$  に対する安定性定理!)

Note 3. このように、定理3の証明は、個別的な、germ に対する考察に依っている。Damonの仕事 ([2],[3],[4],[6]) 等を使った、もっとエレガントな証明が欲しいところである。

## §4 展望

本稿で扱ったのは次の問題であった:

問題1. 有限位相確定写像芽を特徴づけよ。

これを一般の  $(n,p)$  で解くのは、今のところ手がかかりがない。手ごろな問題としては、

問題2.  $n \leq \frac{1}{2}(n,p)$  のとき、次は互いに同値か?

(a<sub>k</sub>):  $f$  は  $C^k$ -infinitely determined ( $0 \leq k \leq \infty$ )

(b<sub>k</sub>):  $f$  は  $C^k$ -finitely determined ( $0 \leq k < \infty$ )

(c):  $f$  は 条件 (c) をみたす.

(t):  $\min \theta(f) \subseteq \text{tf}(\theta_n) + \text{wf}(\theta_p)$ .

(cf. [35]). また一般の  $(n, p)$  について,

問題 3.  $f$ : topologically infinitely determined  $\implies$   
 $f$  は topologically stable off 0 か?  $K$ -bounded off 0 か?

ここで  $f$  が  $K$ -bounded off 0 とは,  $x \in \mathbb{R}^n \setminus 0 \mapsto$   
 $K\text{-codim}(f, x) \in \mathbb{N} \cup \{\infty\}$  が bounded であること.

また, sufficiency と関連して, いくつかの問題が提出されている ([20], [21]).

個人的な感覚としては, 一般に

予想 1.  $f$ : topologically infinitely determined  $\iff$   
 $f$ : topologically finitely determined.

が成り立つのではないかと思う. 定理 3 から,  $p \leq 3$  のとき正しい.

さらにおもしろそうなのは, Fukuda の cone structure (cf. [11]) と関連する問題である.

いま簡単のため  $n \leq p$  としよう. このとき Fukuda [11] により, link をとる mapping

$$\left\{ \begin{array}{l} \text{top. fin. det} \\ \in \mathcal{E}(n, p) \end{array} \right\} / \sim_0 \xrightarrow{\mathbb{L}} \left\{ \begin{array}{l} S^{n-1} \rightarrow S^{p-1} \\ \text{top. stable} \end{array} \right\} / \sim_0$$

が well-defined かつ injective である。そこで、

問題4.  $\mathbb{L}$  は surjective か？

いま、もっとも simple で non-trivial な case  $(n, p) = (2, 2)$  を考える。このとき、かつてな stable map  $g: S^1 \rightarrow S^1$  の top. type を、或る topologically finitely determined map-germ  $f: \mathbb{R}^2, 0 \rightarrow \mathbb{R}^2, 0$  の link として実現することが問題となる。実は、系2は、この問題に対するアプローチのために作ったのである。

写像芽の問題の周辺にも、いまだ発見されていない深い構造が隠されている、そう思えてならない。

(1982. 12. 15)

## REFERENCES

- [1] J. Bochnak and S. Tojasiewicz, A converse of the Kuiper-Kuo theorem, *Lecture Notes in Math.*, 192 (Springer, Berlin, 1971), 254-261.
- [2] J.N. Damon, Topological properties of discrete algebra types I, The Hilbert-Samuel function, *Adv. in Math. Supp. Ser.*, 5 (1978), 83-118.
- [3] ———, Topological properties of discrete algebra types II, Real and complex algebras, *Amer. J. Math.*, 101 (1979), 1219-1248.
- [4] ———, Topological stability in the nice dimensions, *Topology*, 18 (1979), 129-142.
- [5] ———, Finite determinacy and topological triviality I, *Invent. Math.*, 62 (1980), 299-324.
- [6] ———, Topological properties of real simple germs, curves, and the nice dimensions  $n > p$ , *Math. Proc. Camb. Phil. Soc.* 89 (1981), 457-472.
- [7] A.A. du Plessis, On the genericity of topologically finitely-determined map-germs, *Topology*, 21 (1982), 131-156.
- [8] A.A. du Plessis and H. Brodersen, On smooth  $\infty$ -determinacy and topological finite determinacy, preliminary version.
- [9] T. Fukuda, Types topologiques des polynômes, *Publ. Math. I.H.E.S.*, 46 (1976), 87-106.
- [10] ———, Local topological properties of differentiable mappings,  $C^\infty$ -写像と特異集合, 数理解析研究所講究録 403, 109-111.

[11] T. Fukuda, Local topological properties of differentiable mappings. I, *Invent. Math.*, 65 (1981), 227-250.

[12] ———, Local topological properties of  $C^\infty$  mappings II, 微分可能多様体論 シンポジウム (和歌山大学, 1980).

[13] ———, 微分可能写像の特異点論, *数学* 34-2 (1982), 116-139.

[14] ———, 本講究.

[15] C.G. Gibson, K. Wirthmüller, A.A. du Plessis and E.J.N. Looijenga, Topological stability of smooth mappings, *Lecture Notes in Math.*, 552 (Springer, Berlin, 1976).

[16] G. Ishikawa, 写像の特異性に従う関数族について, 京都大学修士論文, 1982.

[17] ———, Families of functions dominated by distributions of  $\mathcal{G}$ -classes of mappings, to appear in *Ann. Inst. Fourier*.

[18] ———, A remark on topological finite-determinacy of map-germs, 日本数学会トポロジー分科会 (三重大学 1982, 秋)

[19] S. Izumiya, Generic bifurcations of varieties I, preprint.

[20] S. Koike, A partition of the coefficient space of real homogeneous polynomials by their variety, preprint.

[21] ———, 本講究.

[22] N.H. Kuiper,  $C^1$ -equivalence of functions near isolated critical

points, *Ann. Math. Studies* 69 (Princeton, 1968), 199-218.

[23] T.C. Kuo, On  $C^0$ -sufficiency of jets of potential functions, *Topology*, 8 (1969), 167-171.

[24] E.J.N. Looijenga, On the semi-universal deformation of a simple-elliptic hypersurface singularity, Part I; Unimodularity, *Topology*, 16 (1977), 257-262.

[25] J.N. Mather, Stability of  $C^\infty$  mappings, III, Finitely determined map germs, *Publ. Math. I.H.E.S.*, 35 (1968), 127-156.

[26] ———, Notes on topological stability, *Lecture Notes*, Harvard Univ. 1970.

[27] ———, Stratifications and mappings, *Proc. Conf. on Dynamical Systems*, (ed. M.M. Peixoto, Academic Press, 1973), 195-232.

[28] ———, How to stratify mappings and jet spaces, *Lecture Notes in Math.* 535, (Springer, Berlin, 1976), 128-176.

[29] I. Nakai, Structural stability of composed mappings I, II, preprint.

[30] R. Thom, Local topological properties of differentiable mappings, *Collog. on differential analysis* (Tata Inst. Oxford Univ. Press, 1964), 191-202.

[31] ———, The bifurcation subset of a space of mappings, *Lecture Notes in Math.*, 197 (Springer, Berlin, 1970), 202-208.

- [32] A.N. Varčenko , Local topological properties of analytic mappings , *Math. USSR - Izv.*, 7 (1973), 883-917.
- [33] ——— , Local topological properties of differentiable mappings , *Math. USSR - Izv.*, 8 (1974), 1033-1082.
- [34] ——— , Algebro-geometric equisingularity and local topological classification of smooth mappings , *Proc. of the Inter. Cong. of Math. (Vancouver, 1974)* 427-430.
- [35] C.T.C. Wall, Finite determinacy of smooth map-germs , *Bull. London Math. Soc.*, 13 (1981), 481-539.
- [36] L.C. Wilson , Infinitely determined map-germs , *Canad. J. Math.*
- [37] ——— , Map germs infinitely determined with respect to right-left equivalence , preprint.
- [38] G. Ishikawa , On topological determinacy of smooth map-germs , in preparation.
- [39] A.N. Varčenko , Theorems on the topological equisingularity of families of algebraic varieties and families of polynomial mappings , *Math. USSR - Izv.*, 6 (1972), 949-1008.
- [40] J.N. Mather , Stability of  $C^\infty$  mappings  $V$  , Transversality, *Adv. in Math.*, 4 (1970), 301-335.
- [41] A.A. du Plessis , On the determinacy of smooth map-germs,



*Invent. math.* 58 (1980), 107-160.

[42] R. Thom, *Un lemme sur les applications différentiables*,  
*Bol. Soc. Mat. Mexicana* (2) 1 (1956), 59-71.

[43] H. Whitney, *On singularities of mappings of Euclidean spaces I, Mappings of the plane into plane*, *Ann. of Math.*, 62 (1955), 374-410.